

平成27年度第1回西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日時：平成27年4月20日（月）午後13時30分から15時30分

場所：西宮市役所 職員会館3階大ホール

出席者：【委員】直田 春夫（会長）、黒木 順子、川東 美千代、石井 道信

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、

同係長 松野 歳之、同副主査 後藤 理恵、同主事 水間 由依

○開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

その後、プレゼンテーションの方法について事務局から説明。

○事務局

1 提案につき20分を予定。事務局説明・提案者から補足説明PRで約5分、委員からの質疑に約15分。提案説明が終了すれば、退席は自由。会長進行で開始。

1 番目の事業「苦楽園・夙川キャンドルナイト事業」について

○会長

事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

→提案者から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

3年目とのことだが、この事業を実施することによって人の流れはどうなっているか把握しているか。

◇提案者

だいたい、1500人がキャンドルナイトをきっかけに苦楽園に訪れている。

○委員

天候についてはどのように考えているか。

◇提案者

昨年の冬のイベントでは、雨のため順延になったが、来場者数が大きく減少してしまった。今回は、約100店の参加店舗にキャンドルを飾ってもらうので、もし雨が降り外で行うキャンドルスポットが実施できなかったとしても順延にはしない予定にしている。

○委員

収支予算書の別紙がないようだが。

◇事務局

この収支予算書は、提案団体のものになるので参考程度にさせていただき、提案事業の収支予算書については別の様式を参照していただきたい。それぞれが紛らわしくならないよう次回以降改善するものとする。

○委員

毎年、事業者だけでなく地域も巻き込んで、規模を拡大して実施しており、地域の発展に貢献していると理解している。

○委員

お店を閉める事業者が毎年10店程度あると聞いているが、そういった店舗に対しても働きかける展開があるとより発展的ないい事業になるのではないか。

○会長

3年目となるが、今後の展望は。また、学校との連携とあり、よい事だと思うが、少し情報提供をしたい。大阪の南千里でもキャンドルナイトを実施しているが、そこでは学校単位でキャンドルスポットとなる場所を与え、生徒がキャンドルの配置などもデザインしている。学校ごとに競争とまではいかないが、住民を巻き込んでいく効果的な手法だと思う。参考にして欲しい。今後の展開についてはどう計画しているか。

◇提案者

3年目でやめる予定はないが、規模については検討中である。補助金分を縮小するか、協賛金を募ることで規模の拡大を図るかといったところである。

○会長

担当課にお聞きしたい。今後の展望は。

◇担当課：環境エネルギー推進課

当課では、昨年「西宮市再生可能エネルギー・省エネルギー推進計画」を策定したが、この中に、市民と行政が連携した取組みの推進を記載している。この計画を元に今後も取組みを支援していきたい。

◇担当課：環境学習都市推進課

西宮市の「環境学習都市宣言」にもあるように、行政だけでなく市民や事業者とも協働して環境に関する取組みを行うことが重要である。当課では「環境学習都市西宮パートナーシッププログラム」という制度を設けており、提案に基づいて、協働して事業を進めていこうという制度があるため、助成金は出ないが、ソフト面での支援を継続していきたいと考えている。

◇担当課：企業支援課

この事業は地域の商業団体の取組みであるため、当課としては関っていくこと自体が重要であると考えている。その中で組織を構成するお店などの個別の課題や、こういった地域の商業の発展につながるような取組みについても支援していきたいと考えている。それによって苦楽園ストアーズ

ミーティングの組織力の強化やこういった取組みの発展にもつながっていくのではないかと。昨年の春から、苦楽園地域でもバルイベントを行うようになり、地域の活性化につながっている。それも、この協働事業で地域の事業者たちと関係作りができた結果だと考えている。

◇担当課：観光振興課

他の3課と同様に、3年で補助対象にならないからといって関係を切ってしまうのではなく今後も継続していきたいと考えている。苦楽園ストアーズミーティングは、主に企業支援課が密に関っている団体であるが、とても意欲的な団体である。観光の面でも西宮の象徴的なエリアとして街のイメージアップにつながっている。また、西宮市観光キャラクターのみやたんもかわいがってもらっているので、引き続き支援をしていきたい。

○会長

時間が来たので、これまで。結果は後日、事務局からお伝えする。

2番目の事業「障がい者ジョブトレーニング事業」について

○会長

それでは、事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

提案者からPRをお願いしたい。

→提案者よりPRあり。

では、委員から質問をお願いしたい。

○委員

ジョブコーチには、何か資格があるのか。また、何が専門的なのか。

◇提案者

ジョブコーチには国の定めた資格があり、派遣については市からの推薦等で行っている。職場内外で、環境を整えたり、その人その人の障がいの特性に合わせたアプローチ方法などのアドバイスをしたりしてもらっている。ファクトリーなごみともそういったジョブコーチを通して連携している。

○委員

障がいといっても種類があるが、どの様な障がいのある人を対象としているのか。

◇提案者

主に知的・精神障がいのある人の訓練を行っている。目に見えない障がいで苦しんでいる人がたくさんいる。事業としては障がいのある人すべてを含んでいるが、主に取り組んでいるのは知的・精神障がいの人である。

○委員

年齢層は。年齢の高い人もいるのか。

◇提案者

60代の人もあるが、概ね20代・30代。

○会長

昨年度、民間企業に就労できた人が一人いると聞いているが、素晴らしい成果だと思う。地域が主体となって、このような取組みを行っていること自体が珍しい。有意義な活動だと思う。カフェで訓練というだけではなく、地域の事業者に対して働きかけ、訓練の場を提供してもらうようにしたらもっと地域に入り込めるのでは。

◇提案者

地域の事業者に対して声かけを行っているが、今年すぐにはいかないのが現状。地域のイベントに積極的に参加し、堆肥作りなどの作業に参加してもらうことで、地域との関係作りを行っている。

○会長

参考に情報提供したい。奈良のNPOなどは県や民間企業の行事の受付を障がいのある人をお願いするなどしている。民間企業で学ぶ機会を設けることは、よい事だと思う。今回で3年目となるが、今後の展望は。

◇提案者

鳴尾東ふれあいまちづくりの会～和～から、発展してNPO法人を立ち上げた。今後はNPO法人が事業を引き継ぎ運営していきたいと考えている。

○会長

担当課に質問したい。将来的に、地域から就労支援を行うといった事業の展望についてどのように考えているか。

◇担当課：障害福祉課

市としては、今年度第4期「西宮市障害福祉計画」を策定している。その中で課題として障がいのある人の就労支援もあげており、課題の解決方法としては、障がいのある人の就労体験の場づくりもポイントの一つとの意見を計画の策定委員からいただいている。体験の場としては、企業や市でも設置しているが、取組みには限界があり、このように地域が主体となって場づくりを行っている点がこれまでの取組みとは大きく違う斬新なものだと考えている。この取組みが、市の施策と方向性が合致していることはいまでもなく、今後、鳴尾東での取り組みの拡大が市全体の就労支援の拡大につながるものと期待している。

○委員

この事業は、収支的に厳しい事業になると思うが、3年目が終わってからはどのように支援していくつもりなのか。

◇担当課：障害福祉課

市が委託を行っている就労支援センターアイビーから支援をしていくのも、方法の一つと考えている。

○会長

時間が来たので、これまで。結果は後日、事務局からお伝えする。

3 番目の事業「ゆるやかつながりサポーター（ゆるサポ）養成講座と多世代交流事業」について

○会長

それでは、事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

提案者から PR をお願いしたい。

→提案者より PR あり。

では、委員から質問をお願いしたい。

○委員

活動主体は地域のボランティアとしているが、何かグループがあるのか。

◇提案者

認知症介護者の会の世話人をしているが、その有志などとともに活動している。認知症のキャラバンメイトをしている人もいるので情報交換をしながら活動している。地域では食事作りなどのボランティアを行っている。

○委員

ゆるサポ養成講座の参加者を募るためには広報していくことになると思うが、自治会など地域への広報はどうするのか。

◇提案者

甲子園二番町のつどい場（二番町ハウス）を実施するにあたり、自治会にも話をもっていき、広報掲示板、回覧板などの活用をお願いしている。各種サポーターへの発信は地域共生推進課にお願いしたい。社会福祉協議会のサポーター養成講座を行っているところとも連携していきたい。

○委員

社会福祉協議会との連携とのことだが、社会福祉協議会とは既に連携しているのか。

◇提案者

今は、社会福祉協議会に対して情報提供のみをしている段階だがこれから連携していければと考えている。

○委員

ボランティアは、ボランティア登録している人が来ているのか。

◇提案者

そのとおり。近辺だけではなくさまざまな地域から来ている。

○会長

ゆるサポ養成講座の具体的な中身は。また、市のサポーター養成講座を受けた人が、ゆるサポ養成講座の中ではどのような役割をするのか。

◇提案者

資料には、講座内容を記載しているが、講座の内容や進め方はこの中から地域共生推進課と調整しながら精査していく予定。

○会長

この場所で2年目以降も講座を進めていくとして、受講者の認知症の人に対する目配りの仕方のイメージなどはあるか。

◇提案者

先日、子供向けのゆるサポ養成講座を実施したところだが、家に帰ってからも講座について話をするなど反応がよかったと聞いている。考えるきっかけができ、その子供たちがお友達にも広めていくなどする。さらに二番町ハウスでさまざまな年代の人や認知症の人などと触れ合うことで、認知症の人などに対しても分け隔てなく接していく機会を増やすことができ、こころのバリアフリーが推進されることを期待している。

○委員

活動開始が平成23年とのことだが、同じ地域に住んでいて、社会福祉協議会にも関わっているがあまり認知されてないように思う。

◇提案者

自分が認知症介護者の会などの有志会で活動を始めたのは23年だが、二番町ハウスで活動を始めたのは昨年から。箱物ではない空間に人が集まることのすばらしさを感じているところ。ぜひ一度来てみて欲しい。

○委員

せっかくいい活動をしているのであれば、社会福祉協議会などにも出向いて話をするなどして欲しい。

○会長

予算書のイベントパフォーマーとは。

◇提案者

触れ合うきっかけをつくれるような、音楽を演奏したり、人形劇をしてくれたりする人を想定している。名称は仮のもの。

○会長

担当課から、協働事業提案をするにあたって、意見があれば。

◇担当課：地域共生推進課

当課では「西宮市認知症地域ケア推進事業」という事業名で社会福祉協議会に委託し、認知症サポーター養成講座を実施している。サポーターの意味合いとしては認知症について正しい知識を持った人を意図しており、数多く養成しようとしているが、その後のフォローまでは手が回っていないのが現状。当課としても、講座を受け、ボランティア活動などに対し意欲がある人の活

躍の場を整えるにはどのようにしたら良いかなど、この事業でのアンケートなどを参考に検討していきたい。ぜひこの機会に協働できればと考えている。

○会長

アンケートとはどのように実施するのか。

◇提案者

講座の際に、そのつど実施していく。大規模なものではない。地域の活動として一つのモデルになればと考えている。

○会長

時間が来たのでこれまで、結果は後日事務局からお知らせする。以上の3つでプレゼンテーションを終了する。

〈第2部 審査〉非公開

○会長

では1番目の事業「**苦楽園・夙川キャンドルナイト事業**」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○委員

- ・エコだけでなく、地域活性化にも幅広く可能性のある事業。協働事業として、成果が出てきている。
- ・学校との連携がよい。
- ・地域を残しながら、新しい取り組みをしていけば西宮市を代表する魅力的な街になるのでは。
- ・活動に拡がりがあり、期待できる。
- ・苦楽園の个性的なお店が、この事業をきっかけにもっとにぎわうと良い。
- ・エコから入っている事業だが、地域の商業活性化にも貢献して欲しい。
- ・今年度で協働事業としての補助はできなくなるが、規模を縮小するのではなく、もっと協賛を募るなどして規模を拡大していくような事業にして欲しい。
- ・もっと参加型になると、より良い事業になる。

○会長

では、2番目の事業「**障がい者ジョブトレーニング事業**」について、採点結果は採択となるが、意見をお伺いしたい。

○委員

- ・地域から一人一般就労を果たしたということだが、すごいことだと思う。続けられるよう、支援を継続して欲しい。
- ・もう一人一般就労を実現するということ、今年度できなくても続けていって欲しい。
- ・すばらしい事業。さらに、まだあまり問題が表面化していない人にもアプローチしていけるよ

うな工夫があると良い。

・他地域にも、広めていきたいとのことだったが、他地域の人たちも自分たちで事業を実施していけるようになると良い。

○会長

では、3番目の事業「ゆるやかつながりサポーター（ゆるサポ）養成講座と多世代交流事業」について、採点結果は採択となるが、意見をお伺いしたい。

○委員

・それぞれの組織が地域の課題を肌で感じて主体的に、活動されている点が一定評価できると考える。ただ、事業を実施していくにあたっては、もっと広い範囲でさまざまな団体と連携して行ってほしい。

・仲良しのグループが、「懇親会をしている」で終わらないように、各団体と、適切に連携して事業を実施してほしい。

・社会福祉協議会とは、サポーター養成講座を受けた人を紹介してもらうなどして、一度養成講座を受けた人に直接働きかけたほうが、成果が出やすいのでは。

・講座の中身は見えてこない部分があるので、これから精査してほしい。

○会長

それでは、審査結果について、事務局でとりまとめていただき、各委員にチェックをお願いした後、市に報告書を提出する。

以上で審査会を終了する。